

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502801		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道 株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 札幌川沿		
所在地	北海道札幌市南区川沿4条3丁目5-37 (電話) 011-573-7001		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年10月3日	評価確定日	平成20年10月17日

【情報提供票より】(平成20年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 15.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	21,000~26,000 円	
敷金	有() 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	10 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 87 歳	最低	60 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さくら内科クリニック、さくら歯科、ラビット歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症ケアに関して、全国に展開する各事業所の「事例研究発表会」が行われ職員の公開研修が熱心に取り組まれています。また、「愛の家グループホーム 札幌川沿」では、協力医療機関の医師の協力を得て「快食・快弁(便)・快眠」の事例研究で「皆が笑顔で暮らせるように・・・」をテーマにケアサービスを実践し、効果をあげています。利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、近隣への散歩、サクランボ狩りや芸術の森散歩、夏祭り参加、狸小路での買物や外食など戸外にでかけられるよう取り組まれています。また、ボランティアの受け入れや中学生・保育園児との交流など地域との交流にも努めています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、市町村担当者とのさらなる連携について取り上げられていましたが、地域ケア会議や札幌市主催の研修会参加、地域包括支援センターとの連携や日々の業務の中での問合せなど札幌市や区との連携を重要視している取り組みが伺えました。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 自己評価は、ユニット会議で具体的に改善点を見出しケアサービスの質の向上に利用されています。また、外部評価の結果については、職員間で共有されていると共に運営推進会議に於いても報告され、運営に反映されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、二ヶ月に一度定期的実施されています。主な議題は事例研究発表会の報告について 事件事例研究について ホーム主催の行事について(外食・外出の取組について) 家族の意見・要望について意見交換 次回開催の運営推進会議について
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族等の来訪時には、要望や意見など聞く機会を心掛け不安への対応も実践されていると共に「ほのぼの通信」を毎月発行して、ホーム行事参加や日常生活の様子など報告されていたり、個々の家族に利用者一人ひとりの健康状態が「お手紙」で報告されています。また、状態変化時には、随時連絡・報告されています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のボランティアの定期的な訪問や地域のお祭りやイベントへの参加で交流が取り組まれています。また、地域の中学生が気軽に立ち寄ってくれたり、保育園児が先生と一緒に訪問してくれるなど日常生活を通じて地域との連携が行われています。近隣住民とは、畑で収穫された野菜や花などの交換などで交流も行われています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして、ホーム独自の理念やユニット毎の理念をつくり、その達成に向けて職員毎の個人目標も持っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は、理念を実践するために毎朝の朝礼で唱和し、ユニット会議に於いてフォローアップされている。		全国展開する法人の事故事例を共有して未だ起きていない事故のヒヤリ・ハットについてデータ収集とその分析が行われている。P-D-C-Aのサイクルが機能する仕組みが整っている。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアの定期的な訪問や地域のお祭りやイベントへの参加での交流や地域の中学生が気軽に立ち寄ってくれたり、保育園児が先生と一緒に訪問してくれるなど日常生活を通じて地域との連携が行われている。近隣住民とは、畑で収穫された野菜や花などの交換などで交流も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ユニット会議で具体的に改善点を見出しケアサービスの質の向上に利用されている。また、外部評価の結果については、職員間で共有されていると共に運営推進会議に於いても報告され、運営に反映される取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、二ヶ月ごとに定期的実施されている。委員は、利用者、家族、地域のボランティア団体、包括支援センター、薬剤師、医師、管理者・職員で構成され、具体的な取り組みが行われている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所・管理者は、市との連携の重要性について理解しており、地域ケア会議や札幌市主催の研修会参加、地域包括支援センターとの連携や日々の業務の中での問合せなど札幌市や区との連携を重要視している取り組みが伺えた。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「ほのぼの通信」を毎月発行して、ホーム行事参加の様子や日常の暮らしぶりなど報告されている。また、一人ひとりの健康状態や変化など個別の「お手紙」で報告されていると共に金銭管理の報告も定期的に行われている。</p>		<p>特筆すべき点として、法人独自の利用者アンケートの実施でケアサービスの質の向上に取り組まれている。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時には、意見や苦情、要望などを聞く機会を作ったり、玄関入り口に意見箱を設置して苦情等を表せるように取り組んでいます。また、コンプライアンスの体制も整備されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニット毎に勤務者を掲示して、来訪者や利用者に分かりやすくしている。また、事業所は、職員の異動などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修が計画的に実施されていると共にOJTも実践されている。また、研修参加者の報告書を回覧するなど職員間で共有される取り組みが実施されている。		特筆すべき点として、協力医療機関の医師の協力を得て「快食・快弁(便)・快眠」の事例研究で「皆が笑顔で暮らせるように・・・」をテーマにケアサービスを実践し、効果をあげている。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の各事業所が参加する「事例研究発表会」の公開研修に他事業所の参加を呼びかけたり、地域ケア会議や地域の管理者会議での交流を通じて情報交換が行われている。		今後は、さらに「事例研究発表会」を通じてネットワーク作りが浸透していくことに期待しています。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得したサービスを利用するために利用者・家族の見学などが行えるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、明るく穏かで利用者と一緒に歌を歌ったり、散歩や食事の準備をしている。共用空間は、家庭的雰囲気を感じさせます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの思いや暮らし方の希望に応じて、近隣への散歩や個々の生活歴に配慮して狸小路での買い物や食事、公園散策やドライブなど戸外にでかけられる機会を作ったり、中学生や保育園児との交流、ホーム主催の行事参加など行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	認知症ケアに有効とされるセンター方式が採用され、介護支援専門員の適切な監理のもとに、利用者、家族の希望や医師からの助言・情報や職員からの意見を取り入れ具体的な介護計画となっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画書に記載している個別の期間を目安に定期的に評価が実施され、利用者・家族の要望や利用者の状態変化に応じて都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、通院の送迎や往診、散歩や買い物、趣味への支援など柔軟に行っている。また、中学生や保育園児、ボランティアとの交流などにも取り組まれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者、家族が希望するかかりつけ医との連携で適切な医療が受けられるように支援されている。また、月2回往診も行われ緊急時にも対応されている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、確認書を作成し利用者・家族と相談しながら支援方法を対応できるよう職員間で方針を共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人全体でコンプライアンス体制を確立し、法令遵守への取り組みが実践されている。また、一人ひとりのプライバシーに配慮した取り組みも実践されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にして、近隣への散歩や畑での野菜の収穫、買い物や外食、食事の準備・後片付けなど本人の希望に沿って支援している。特に今年は、外出の機会を増やすことを目標に職員が実践しています。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専門の調理職員が配置され、献立表には具体的数値でカロリー表示されている。また、畑で野菜を収穫したり、一緒に食事の準備や後片付けをするなど食事が楽しみなものになるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも(時間も自由)入浴ができるように利用者に伝え一人ひとりのタイミングや希望に応じて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や希望に応じて、畑での野菜の収穫や歌唱、外食や買い物、気晴らしのための散歩や公園までのドライブなど支援が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭での日光浴や散歩、スーパーでの買い物、公園までのドライブなど戸外にでかけられるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関は、鍵をかけていない。職員間で連携をとり見守りを強化し、取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	資格を持った防火管理者が配置され、消防署の協力を得て火災避難訓練が年2回実施されている。また、消火設備の点検や消火器の使用方法も訓練されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、具体的な水分摂取量が記録されている。また、摂取カロリーについても献立表に具体的に数値で記入されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	札幌市内にありながら敷地内は広く、来訪者や家族等の駐車スペースも十分に確保されている。また、共用空間では利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。共用空間の壁には、ホーム行事参加の写真や季節を感じさせる装飾が飾られていたり、観葉植物やプランターに花が植えられ生活感が感じられる工夫もされています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や使い慣れた家具、食器などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫がされている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。